



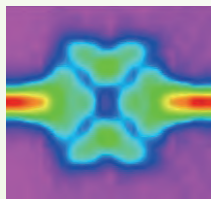
■コース生(第3期生)の活動報告



Hong BingZhou

総合理工学府
 量子プロセス理工学
 一貫制博士2年(修士2年)

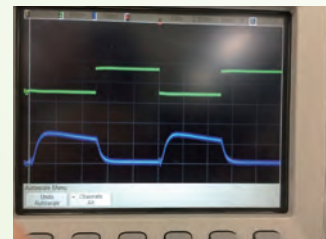
It's almost 1 year since we joined GA course. I learned a lot from events and activities held by GA staffs and members. I had the honour to be selected as one of the student representative science then. Up to now we had a regular lunch chatting every two weeks and some interesting trips occasionally. During these events, GA members knew each other better and became in good relation. Currently, I'm busy in my own research about semiconductor lasers. My work focused on the next device design. We will, however, plan more events and activities in the near future. As we GA members come from diverse culture, we will try to enhance our understanding of different culture more deeply through next plans.



前蔵 貴行

総合理工学府
 量子プロセス理工学
 一貫制博士2年(修士2年)

GAの入コース試験からすでに一年が経ちました。はじめはGAの授業やシステムに慣れておらず、色々戸惑うこともありましたが、最近は余裕を持てるようになってきており、現在はラボローテーションやプラクティススクールなど普段とは違う経験をすることで刺激を受けています。ラボローテーションでは光デバイスについて研究を行っている研究室をローテーション先として選びました。普段、自分の研究室では電気特性やシンプルな光測定しか行っていないので、複雑な光回路を組んで測定を行うことは非常に勉強になりました。また、現在八月末まで約一ヶ月半のプラクティススクールを行っている最中で、私は企業の研究開発センターで実習をしています。この経験は将来、企業に就職を考えている私にとって、現場の状況を知ることができる有意義な時間となっております。今後も二つ目のラボローテーションやQEなどがありますが、そのいずれも自分にとって大きなものを得る経験になると思うので日々頑張りたいと思います。



藤崎 貴也

総合理工学府
 物質理工学
 一貫制博士2年(修士2年)



昨年度より本コースに所属しております、藤崎です。これまでこのコースで私が経験したことを、紹介したいと思います。このコースでは同学年に日本人と海外留学生の数が共に約10人ずつ所属し、英語を公用語として使用しています。授業内での議論はもちろんのこと、授業外での交流も英語で行われています。これは私にとって初めての経験であり、そのため、日々、驚きと発見が数多くあります。

現在、私はこのコースの特徴的なカリキュラムの一つである、「研究室ローテーション」を行っています。これは、研究の視野を広げるため自身の所属する研究室以外に、二つの研究室に参加することです。一つは、計算シミュレーションを行える研究室に参加することです。私の所属している研究室が実験系の研究室であったため、計算シミュレーションもしてみたかったことが選定理由です。もう一つはアメリカのマサチューセッツ工科大学が学内に置いている研究室に参加することです。この選定理由は、自身の研究とコミュニケーションを全て英語で行いたかったことです。

この二つのカリキュラムはコースの一部分ですが、これらのカリキュラムを積み重ねていくことにより、自身の専門分野のみならず、広い視野を持つことが出来ると思います。今後は、本コースの先生方や関係者の皆様に対して感謝の気持ちを忘れず、自分の目的が達成できるよう取り組んで行きたいと思っています。



高橋 良堯

工学府
 地球資源システム工学
 一貫制博士2年(修士2年)

私がグリーンアジアプログラムに参加し、早いもので約一年が経過しました。この一年、プログラムの様々な活動を通し、貴重な経験してきました。普段の授業では、理系ではあまり学ぶことのない、経済学や社会学を通し、文化的な視点が、また英語による授業や、プログラムの留学生との交流により英語運用能力等、理系の枠にはとらわれない幅広い能力が日に日に身についていくのを実感しております。また授業以外にも、最近私が行ったプラクティススクールでは、独立行政法人産業総合研究所にて、私の研究である露天掘り鉱山における発破メカニズムの解明に向け、現場を模したコンクリートブロックを用いた爆破実験を行いました。研究室では普段行うことのできない実験や、研究者の方々との交流を通し、より実践的な技術・知識を得ることができました。このように、専門知識に留まらない多岐にわたる分野や、世界で活躍することに焦点を当てた本プログラムは、将来世界の舞台で働きたいと考えている私には大変有意義なものであり、今後も本プログラムの活動を遂行し、日々邁進していきたいと思っています。

